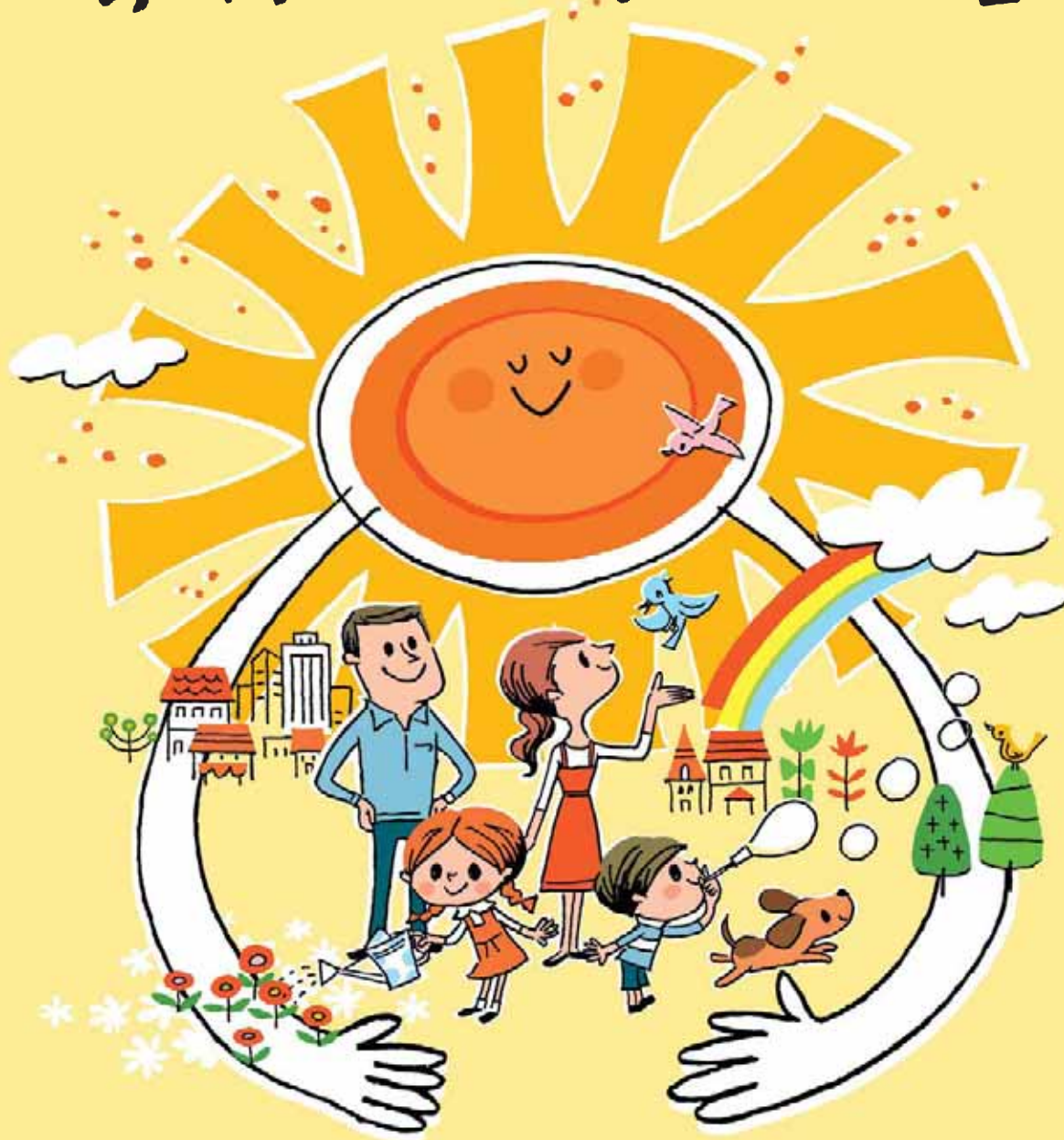


平成20年度 子育てを支える
「家族・地域のきずな」



家族の日
11月16日(日)
11月の第3日曜日

家族の週間
11月9日(日) - 22日(土)
「家族の日」の前後各1週間



今こそ「家族・地域のきずな」を締め直そう

「家族・地域のきずな」フォーラム実行委員会代表
国立小児病院名誉院長

小林 登

犯罪・虐待などの毎日のニュースばかりではなく、離婚も増加し、その一方で、子どもの数は減っています。今「家族・地域のきずな」が弛み、社会に「ガタ」がきているのです。何故そうなったのでしょうか。科学・技術の進歩のお蔭で物質的に豊かになり過ぎた事も、その理由のひとつです。公害・環境汚染、生活廃棄物・産業廃棄物の山を見れば、それは明らかなことです。同時に、心も汚染され、行き過ぎた個人主義・物質万能主義となり、人間関係が希薄になった結果、「家族・地域のきずな」も弛んだのでしょうか。

「家族・地域のきずな」を締め直すには、遊び・スポーツ・お祭などによってお互い同士が豊かに触れ合える社会にすると共に、次の時代を担う子ども達を心豊かに育てる事が必要です。それは家庭の育児であり、地域の保育や教育です。現在、保育や教育は専門家によって行われていますが、その昔やっていた様に、それぞれを人間の営みとして関係づける必要があります。子どもを中心に地域の人々も巻き込めば、より良い子育てが可能となり、「家族・地域のきずな」も強まるのではないのでしょうか。今こそ子どもの目線に立って、子育てをチャイルドケアリング・デザインする時にあります。

「家族・地域のきずなを再生する国民運動」の実施にあたって

未来を担う「子どもたち」を慈しみ、守り育てることは、我が国の基礎を確かなものとしていく上で不可欠なことです。

現在の急速な少子化に対応するため、安心して子どもを生み育てることのできる環境の整備や、社会全体の働き方の改革を通じた仕事と生活の調和の推進など、少子化対策をさらに効果的・総合的かつ迅速に推進していくことが求められています。そして、これらの取組を効果的に進めていく上でも、生命を次代に伝え育てていくことや家族・地域の力の大切さの理解を深め、その紐帯を強めていくことは極めて重要です。

このような観点から内閣府では、昨年度に引き続き「家族・地域のきずなを再生する国民運動」を実施し、11月16日の「家族の日」、その前後各1週間の「家族の週間」を中心に地方公共団体や関係団体等と連携し、大会の開催や作品募集・表彰等を通じて家族・地域のきずなの重要性について呼びかけをしてまいります。

これらの取組を通じ、国民一人ひとりが、かけがえのない家族の存在価値や地域のきずなの重要性を認識し、誰もが安心して結婚・出産・育児することができる社会の構築に資することを目指しています。

内閣府

「家族・地域のきずなを再生する国民運動」のあらまし

総合的な少子化対策を進める上で、生命を次代に伝え育てていくことや家族の大切さが理解されることが重要であり、子どもを慈しみ、守り育てることは社会の基本的な責任です。

そのため、国、地方公共団体、関係団体等が連携・協力して、「家族の日・週間」を中心に各種行事を実施し、家族や地域の皆さんが参加する国民運動を進めています。

家族の日
11月16日(日)
11月の第3日曜日

家族の週間
11月9日(日)ー 22日(土)
「家族の日」の前後各1週間



みつめる

「家族・地域のきずなを再生」
についての有識者会議
子育てを支える
「家族・地域のきずなを再生する国民運動」
啓発パンフレット

つたえる

子育てを支える「家族・地域のきずな」
に関する作品コンクール(標語、手紙・メール)
子育てを家族で支え合う大切さ、感謝の思い
子育てを社会も応援する大切さ

あつまる

子育てを支える「家族・地域のきずな」
フォーラム(奈良、岐阜、福島、長崎)
いろいろな世代が、
様々な地域や職場から、
そして全国から

とりくむ

家族で話し、
一緒に食事する時間を大切にする
地域で見守り、助け合う機会をつくる
仕事にも家庭にも関わられる
時間を確保する

関係団体の取組

家族の大切さなどについて訴えかける
キャンペーンや
啓発活動を実施

国の取組

(内閣府・関係省庁)

地方公共団体の取組

「子育てフォーラム」
などの取組や
「家庭の日」、「育児の日」
などの行事を実施

「家族とのつながり」

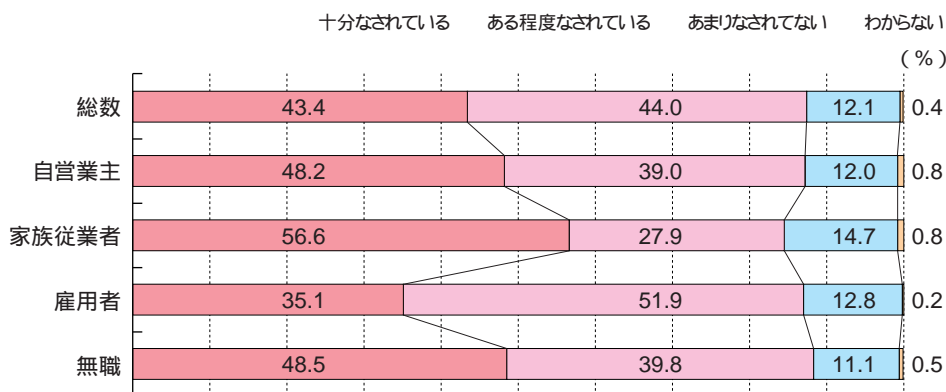
同居家族間での話し合いについて

家庭内で十分話し合いがなされていると思う人たちの割合は43.4%



ふだん食事の時など家庭内で、家族や自分たちのことについて十分話し合っていると思う人の割合は、職業別に見ると雇用されている人で少ないことがわかります。

家庭内での話し合いについて



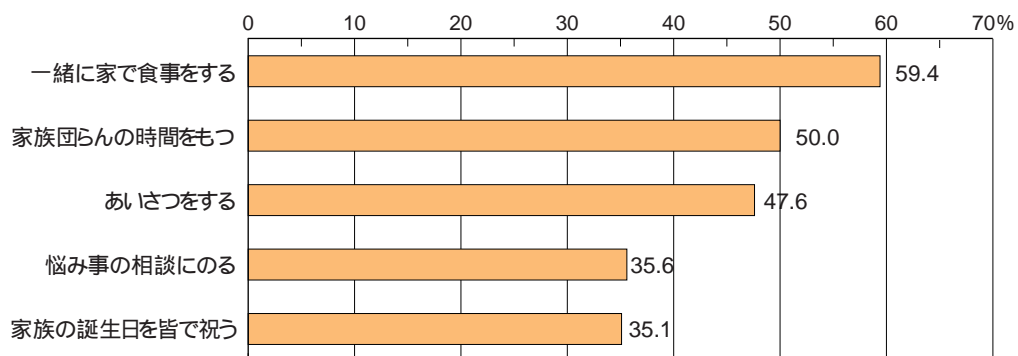
同居家族間で大切にしていること

一緒に家で食事することや家族団らんの時間をもつことを大切にしている人が多い



現在、同居している家族の間で大切にしていることを聞いたところ、一緒に家で食事することや家族団らんの時間をもつことを半数以上の人が大切にしています。

家族の間で大切にしていること(上位5項目)



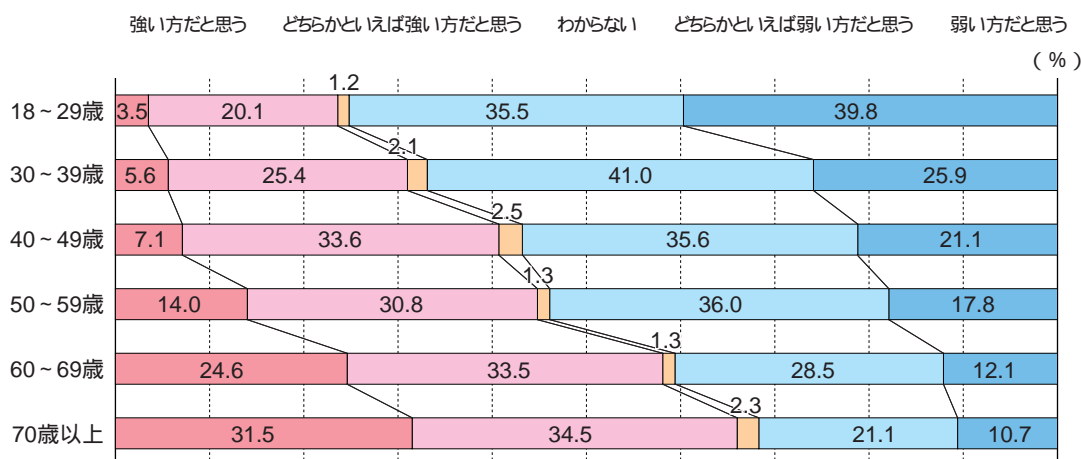
「地域とのつながり」

地域の人たちとのつながり

若い世代ほど、自分と地域のつながりは弱いと思っている

自分と地域の人たちのつながりについて聞いたところ、年齢別では、60歳代以上の人がつながりは強い方だと思っています。また、30歳代以下の方は弱い方だと思っています。

地域の人たちとのつながり

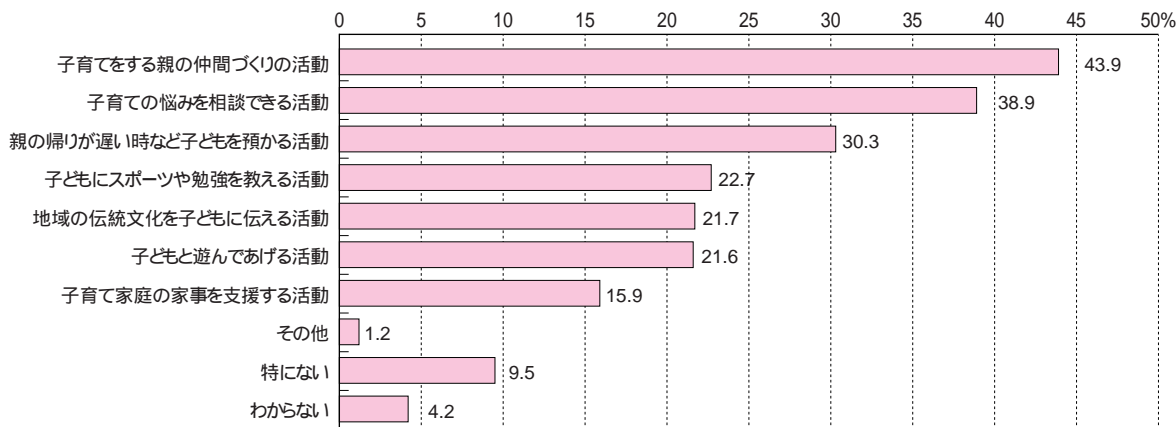


子育て支援に関する地域への期待

子育てしやすい社会になるためには、子育てをする親同士の仲間づくりの活動が望まれている

住んでいる地域が、子育てしやすい社会になるためには、どのような子育てに関する活動があればよいか聞いたところ、「子育てをする親同士の話ができる仲間づくりの活動」や「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる活動」を希望する人が多くなっています。

子育て支援に関する地域への期待



有識者の知見

まず父親のサポートで 母親の安らぎと子どもの喜びを

小林 登 [国立小児病院名誉院長]

家族が共に喜び、感激することは、
生命のバトンタッチする
母親の精神を安定させ、
子どもにも良い影響

【これまでの研究から分かること】

(ア) 母親の精神状態が胎児の行動にも影響—母親が嬉しいときは胎児の運動時間は長く、運動も速くなる。

- ・「基本的信頼」の確立には、親子の相互作用が重要。
「共感の心」、「心の理論」の確立には「基本的信頼」が必須。

(イ) 夫婦間での情緒的サポートを受けているとの認識は、妻の方が低い。

- ・妊婦・分娩・育児により、生命のバトンタッチする母親に対する父親のエモショナルサポートが大事で、父親の育児休業を常態化しなければならない。
- ・子育てのノウハウは世代間で伝承される。母親の子育てに祖父母の果たす役割は重要である。

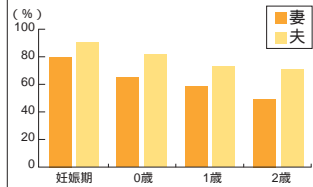
(ウ) 結婚した夫婦で、子どもの頃から今までに赤ちゃんにふれ合う機会があったのは約半数である。

- ・家庭・学校・社会でのお年寄りや赤ちゃんとのふれ合い、いろいろな職業の人同士とのふれ合い、異世代の子どもたちとのふれ合いは、人の心を読み取る心や道德感覚の基盤の強化につながる。

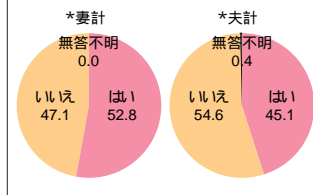
夫婦間の情緒的サポート 「相手から自分へのサポート」

Q: 私の配偶者は私の仕事、家事、子育てをよくねぎらってくれる

*「あてはまる」「ややあてはまる」の数値



Q: 子どものころから今までに赤ちゃん(ご夫婦のお子様は除く)に身近に接したり世話をする機会がありましたか?



(資料) 第1回妊娠出産子育て基本調査 (ベネッセ次世代育成研究所 平成19年)

脳機能の発達には、家族や自然との 様々な接触の機会が重要

津本 忠治 [理化学研究所脳科学総合研究センター
グループディレクター]

親、兄弟など周りの人と「顔」や
「目」を見つめて、言葉を交わす
ことが脳機能の発達に、大きく影
響すると想定されている

【これまでの研究から分かること】

(ア) 脳には、「顔」だけによく反応する神経細胞が集まる領域()が存在する。()大脳皮質側頭葉や扁桃体と呼ばれる領域

- ・コミュニケーションには相手の「顔」に表れる情動()を察知することが大切であるが、高度情報化の進展は、その機会を減らす傾向にある。()表情や行動に表れる感情
- ・子どもがゲームやテレビ等を一人で見ると見る機会を減らす。見る場合は家族一緒に見る。また、家族で顔を合わせて食事をする機会を増やすことが重要である。



(イ) 脳機能の健全な発達には、乳幼児期に偏りのない豊富な刺激を受けることが重要である。



- ・多様な自然環境で遊ぶ、近所の人たちと顔を合わせ、言葉を交わすという自然や人との交流、刺激は大事である。
- ・地域で子どもが遊べる自然環境豊かな空き地や遊園地を残すこと、歩行者天国のような車がいない地域や時間帯を放課後に設けること、放課後の子ども会活動を活発化することなどは、子どもの脳の発達に良い刺激を与えられる。

ふれ合いとあたたかい抱きしめが 乳児期の信頼関係を築く

橋本 武夫 [聖マリア学院大学教授・医療福祉研究所所長]

乳児期は、親子の
基本的信頼関係(愛着)を作る
土台の時期

【これまでの研究から分かること】

(ア) 子育ての基本的な過程をしっかりと理解することが重要である。

- ・乳児期の育児の基本は“抱いて、語りかけて、おっぱい”。これを満たすことで、愛着 = 基本的信頼関係が形成され、愛の原点が育まれる。
- ・乳児期の父親の育児参加の本当の意味は、お母さんを精神的面も含め、支え、Hugする(抱きしめる)ことである。

(イ) 母乳育児は母乳とミルクの物質的な差よりも授乳行為そのものが母性行動の発現に働き、子どもとの信頼関係に結びつく。

- ・乳首を吸われることにより、プロラクチン、オキシトシン(母性愛ホルモン)の分泌が子どもを生んだ女性を母に育てる。
- ・母乳育児により愛着形成は強まるが、母乳をやれないお母さんでも自信をもって楽しい育児ができるように、その支援を忘れてはならない。

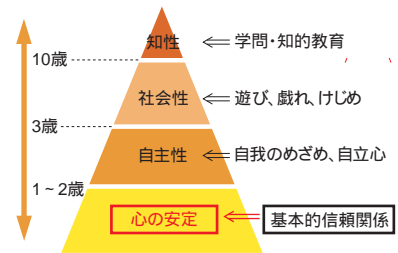
(ウ) 人間の発達には前頭葉(情緒、感情、我慢、善悪の判断を司る)が深く関わり、人と人とのふれ合い、そして戯れ、遊びにより発達する。

- ・乳児の最高のオモチャは、お母さんの百面相。読み聞かせも、子どもの前頭葉の発達に大きく関わる。
- ・幼稚園での遊び、戯れ、多くの子どもとのふれ合いなどの体験は、前頭葉の発達を促す。けがを怖れて、幼稚園で子どもが遊ばせられなくなっているのは残念なこと。

(エ) 子どもの発達過程において育児の4層構造の理解が重要である。

- ・年齢にあわせた子育ての基本(図参照)を理解しておくことが大切である。

子育ての基本(人格形成の過程)
- 朝日が一日を示すごとく、子どもは人間を示す -



子育て中の家族を社会全体で支えよう ~ ゆとりある「待ち」の子育てが子どもを伸ばす ~

内田 伸子 [お茶の水女子大学副学長]

遊ぶ、話す、読み聞かせ -
子どものために時間を割く努力が、
認知発達・社会的適応に影響

【これまでの研究から分かること】

(ア) 母親の暖かく受容的な態度が子どもの発達に良い影響をもたらす。

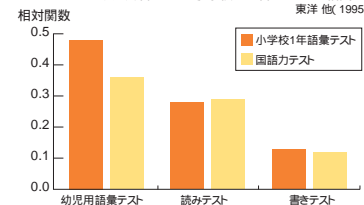
- ・子どもと過ごせる時間が短くても、一緒に遊び、会話し、絵本を読み聞かせるなど親子の心込めての関わり合いがあるなら、子どもの認知発達や社会性の発達は促される。
- ・命令口調で知識や言葉を教え込もうとすると、子どもの関心や集中力を損なわせてしまう。
- ・幼児期に漢字教育を受けても、小学校では教育の効果は消えてしまう。

(イ) 父親、祖父母、社会の支えを実感している母親は子育てバーンアウト(燃え尽き症候群)にかかりにくく、ゆとりある子育てをしている傾向がある。

- ・ゆとりある子育てでは3歳代の言語発達にも好ましい影響を与えている。

母も父も子育てを楽しめるよう、家族で過ごす時間を取り戻そう。幼い子どもを持つ父母の就労形態を変え、フレックスタイムや在宅勤務など多様な働き方を社会全体で整備し、支えることが大事である。

200の文字を教えるよりも100の「なんだろ？」を育てたい
幼児用各テストと小学校での各テストとの相関
東洋 徹(1995)



有識者の知見

家で、地域で、 大人の「存在」感を見直す試み

明石 要一 [千葉大学大学院教育学研究科教授]

家族の会話は、
子どもが親の「座」、仕事と社会、
人間関係、食文化などを知る
絶好の機会

【これまでの研究から分かること】

(ア)親子だけでなく家族全体での会話が減っている。「個食」「孤食」の子どもが増えている。

- ・家族での会話が弾み、食が進む - 家団らんの機会を持つようにする。
例えば、晩酌をするためには、父親が夕食時に帰宅しなければ意味がない。
- ・一家団らんの機会に、子どもと仕事や社会について会話をする事により、
親の苦勞を理解させたり、人間関係能力の習得の機会を与える。

(イ)子どもたちの放課後の世界一遊び仲間、遊び空間、遊び時間の三つの「間」を、
地域で子どもの成長に合わせた第三の大人が用意する必要。

- ・子どもは「地域の宝」の再認識
地域にデビューした子どもをみんなが本気で面倒を見てきた。
親が第一の大人、教師が第二で、地域の人々は第三の大人である。
- ・幼児期の交換ホームステイ
気のあった者同士。子どもを交換し一週間他人の子どもを面倒を見る。
第三の大人になる。子どもは「他人の飯」を経験する。人の家にいけばおりこうさんになる。
返事ができお手伝いを進んでするようになる。
- ・一週間の通学合宿
小学校高学年が近くの公民館や青少年施設で一週間程度の宿泊体験をしながら、学校に通う体験。
子どもたちが自分たちで衣・食・住の生活体験をする。大人は子どもたちを見守る第三の大人になる。



家族との時間を増やす努力が、 コミュニケーションを深める

坂元 章 [お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科教授]

親子共通の趣味は、
家族との時間を増やし、
子どもとのコミュニケーションを
深める

【これまでの研究から分かること】

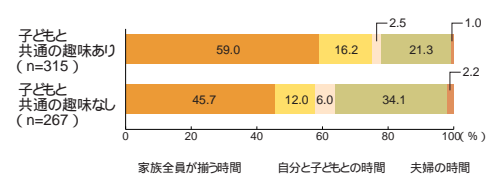
(ア)子どもと共通の趣味を持たない親は4割程度であるが、共通した趣味のない親は、家族との時間より自分の時間を優先する傾向がある。

- ・共通の趣味は、子どもとのコミュニケーションを取りやすくさせる。これはもちろん、子どもの成長や安全にとって有益なものである。

(イ)オンラインゲームの多数のユーザーが「ほかにしなくてはならないことがあってもオンラインゲームを始める」「ゲームをしていないときに、オンラインゲームのことを考えてぼんやりとする」と答えている。

- ・メディア使用に極端に時間をとられることは、家族とのつながりやコミュニケーションへの阻害などにつながることもある。
- ・メディアにのめり込み過ぎないように、使用のルールを決めるなど、家庭における取組が大事である。

【休日を通る時間で優先している時間と子どもとの共通の趣味の有無(父)】



【資料】現代親子調査第3回レポート「学びと遊び」 サントリー次世代研究所(平成19年3月)

脳の発達、遺伝子と環境の相互作用の結果である

桃井 真里子 [自治医科大学小児科学教授]

胎内でも出生後でも
遺伝子に環境が働きかけて、
個体の内面や外面が形成される

【発達障害の研究から分かること】

(ア)子どもは、父親と母親の遺伝子を半分ずつ受け継ぐが、その発現の仕方は他の遺伝子や環境の影響を受ける。

脳の発達、とくに認知機能の発達への影響は遺伝子だけでないことが研究のなかで分かってきている。

- ・同じ遺伝子変異を持っていても、それが顕在化する場合としない場合がある。
 - ・ある遺伝子変異が特定の環境要因に脆弱性を示して、発達に影響すると推定される。
 - ・遺伝子要因が大である場合と、人との関わりなどの環境要因が大である場合とがある。
- など

(イ)遺伝子発現に関わる無数の環境因子によって脳形成がなされるが、その環境は胎内からずっと働き続ける。

- ・遺伝子そのものは変更不可能でも、環境は変更可能である。
- ・遺伝子そのものは変更不可避でも、その遺伝子は、食物、環境物質、ストレス環境、ホルモン環境などで発現が異なる。
- ・遺伝子の特性を知ること、脳形成にどの環境が重要かを知る第一歩である。



参考

「カエル!ジャパン」キャンペーン



さまざまな理由で、仕事と生活が両立しにくい現代。しかし、理想は、『国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たしながらも、家庭や地域生活などというさまざまな場において、また、子育て期や中高年期といった人生のさまざまな段階に応じて、多様な生き方が選択・実現できる社会』です。

「カエル!ジャパン」キャンペーンは、現状を「変える」という変革への思いを、親しみやすい「カエル!」のキャラクターに託し、企業や働く方、各種団体、国・地方公共団体はもちろんのこと、老若男女すべての皆さんの参加により、社会全体で仕事と生活の調和の実現に取り組んでいくことを目指しています。

さあ、あなたもできることからひとつ、「働き方」を変えてみませんか?

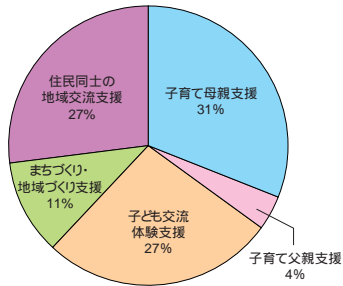
内閣府 仕事と生活の調和推進室 <http://www8.cao.go.jp/wlb>

子育てを支える「家族・地域のきずな」を深める先進的取組事例調査

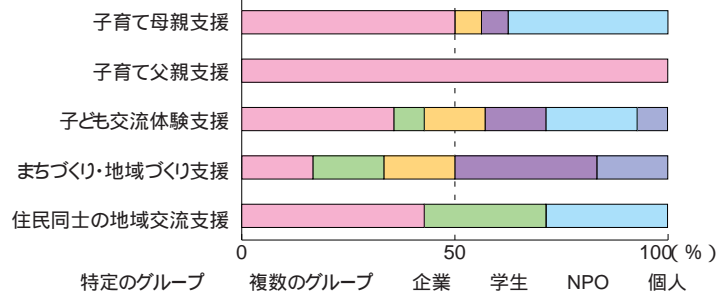
事例調査の概要（平成20年3月）

子育てを支える「家族・地域のきずな」を深める先進的な取組事例を、今後、新たに活動に取り組む住民等へ情報提供し、自主的な取組の参考となるよう調査することとし、都道府県等に推薦を依頼しました。その結果145事例を収集し、うち52事例をヒアリング調査しました。

事例の分野別割合



事例の活動主体別割合



子育て母親支援

託児システム「カンガルーママ」
 託児付エアロビクス 親子DEうんどうあそび
 キッズストリートダンス 親支援プログラム
 育児サークル支援 など

「平群町でわが子を育てたい」という子育てへの思いをもとに、子育て環境を自分たちの手で守ろうとしている。親子が会える時間、空間、仲間の「3つの間」を大切に「子育て」が「孤育て」にならないように子育て中だからこそ、出会う、気付き、支え合うエンパワメントを目指して「子どもと親の共育ち」の機会をつくっている。

へぐりCO育てネット

所在地:奈良県 活動主体:NPO法人

<http://www18.ocn.ne.jp/~boran/kosodate.html>



子育て父親支援

家族での花見、忘年会、新年会、野外自然体験
 救急蘇生法の学習会 食育とママへのプレゼントを
 兼ねた花と野菜づくり 遊びの森での秘密基地づくり
 焼き芋大会 など

子どもと楽しみながら父親同士の交流を深め、父親としての能力や技術を学んでいる。父親と子ども、父親同士のコミュニケーションの場づくりや母親の自由時間の創出を図っている。

こうちパパ楽会

所在地:高知県 活動主体:特定のグループ

<http://kurashinogakkou.com/>



子どもの交流体験支援

和泉少年サッカー「テクノステージ和泉杯」の開催
「職場体験学習」への受入(地元中学生) など

テクノステージ和泉(産業団地)の企業による地域貢献として、「テクノステージ和泉杯」を開催し、未来ある子どもたちへサッカーという競技を通じて青少年の健全育成や地域コミュニティの発展、サッカーの技術向上と普及を図っている。全国でもまれな10歳(小学4年生)以下のサッカー大会として市内10チーム(約200人)が技術を競っており、企業のサッカー部員が指導を行うなど交流を深めている。

テクノステージ和泉まちづくり協議会
所在地:大阪府 活動主体:企業



まちづくり・地域づくり支援

美化活動、地域おこしのイベント等への参加

地域とのつながりを深めることをスローガンに高校生や大学生が中心となってサポーター・ズクラブを結成し、小中学生の活動を支えながら、まちの美化活動等を行っている。月1回の定例会で自分たちにできるまちづくりのあり方を検討し、活動日には、近隣の学生や地域の住民も加えたまちづくり活動が展開されている。

八雲ジュニアサポーターズクラブ
所在地:島根県 活動主体:学生



住民同士の地域交流支援

子育て応援シアター
チャイルドライン千葉「子ども電話」

0歳児から乳幼児とその親や家庭に舞台鑑賞や自然体験活動等への参加の機会を提供している。また、「地域で異年齢で楽しむ」ことを目標に掲げ、子どもが幼児期を過ぎても、母親のOB会、父親の会、中学生・高校生の会と輪を広げて活動し、交流を深めている。チャイルドライン千葉「子ども電話」を開設し、電話を通して子どもの声を聴き、子ども自身の力で問題を解決できるようサポートしている。

特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
所在地:千葉県 活動主体:NPO法人



最優秀賞

テーマ① 子育てを支える家族みんなの力

夢ある子
そだてる家族の
支えあい

秋田県 篠田 健三さん 70歳

最優秀賞

テーマ② 子育てを応援する地域みんなの力

子は宝
守りの要は^{かなめ}
地域の輪

新潟県 坂井 良子さん 40歳

最優秀賞

テーマ③ 子どもや生命を大切にする社会の輪

子どもの笑顔
つくる人の手
社会の手

千葉県 上中 直樹さん 28歳

①
小学生の部
最優秀賞

手紙・メールの部

ひみつのトイレはたのしいトイレ

新潟県 坂井 敏法さん 小学1年生

おねえちゃん、やっちゃん。きょうもいっしょに、よなかのひみつのトイレ、いこうね。まず、ぼくがおきて、やっちゃんをおこすね。そして二人で、おねえちゃんのへやへいくよ。そのあと、三人で、トイレへいこうね。

一人でいくの、すっごく、こわいもん。二人でいくのも、ちょっとこわいから。でも三人でいけば、大じょうぶ。こわくないよね。おとうさんは、しごと中。おかあさんは、ねむり中。

「おとうさんとおかあさんをちょっとでも、たすけようね。三人で力をあわせて、がんばって、トイレにいこうね。」って、三人でひみつのかいぎで、きめたんだよね。おとうさんとおかあさんが、いままでぼくたちをそだててくれたことへの、ごおんがえしだよ。

もっときょうだいほしいな。力をあわせてみんなでそだてよう。こんどは四人でトイレにいけるよ。たのしいたのしいトイレだね。



②
中・高校生の部
最優秀賞

今年も元気なおじいちゃん、おばあちゃんへ 兵庫県 佐藤 みどりさん 高校2年生

おじいちゃん、おばあちゃん、ありがとう。物心ついた時から、私はおじいちゃん達と一緒に暮らしてて、それが当たり前やと思ってた。でも今は、毎日感謝の連続です。

私が小学校に入る前、めっちゃわがママやった私を見て、おじいちゃんは『情けない。』と泣いてくれたね。その涙が、今も私の心を動かしてる。教科書の中の出来事やった戦争も、『今ここにいるおじいちゃんが経験した』っていう事実だけで、私の意識はめっちゃ変わった。おじいちゃんとおばあちゃんがいてくれるから、両親も安心して仕事に行ける。

そして何より、おじいちゃんとおばあちゃんと過ごす時間の中には、大切なもんがいっぱい詰まってるねん。風呂の残り湯で洗濯をして、その残り湯で花の水遣り、夏は打ち水。いつか私が家族を持ったら、受け継いで、実践したいと思ってるよ。

私は夏休みにカキ氷を作ってあげることしかできひんけど、カキ氷くらいなら、毎年作るから。家を出ても、作りに帰ってくるから。おじいちゃんとおばあちゃんは、毎年元気にここにおってね。



③
一般の部
最優秀賞

「母から 離れて暮らす長男へ」 青森県 藤田 智恵子さん 42歳

初任給で家族全員に買ってくれたプレゼント届きました。ちゃんと一人一人に感謝の手紙まで添えてあって。ありがとね。お父ちゃんとお母ちゃんは、嬉しくて有り難くて、二人で鼻水垂らして泣きました。

一体いつの間にこんな立派な大人になったんでしょうねえ。

このまちの自然に囲まれ、地域のみなさんの思いやりに包まれ、家族の愛情を受けて、あなたはまっすぐに育ってくれた。有り難いことです。東西南北どの方向にも深々と頭を下げお礼をしたい程、あなたを支え育ててくれた全てのみなさんに、感謝しています。じいちゃんとお隣のすみばあと、お向かいのさだばっちは、茶飲み話にいつも「克哉の嫁っこ見るまでは元気でいないば。いやいや、孫っこ見るまで元気でいないば」と、楽しそうに笑っています。東京で暮らすあなたの頑張りや、みんなに元気をくれてますよ。ありがとう.....。



家族や地域を大切にする様々な取組

子育ての支援フォーラム

家庭や地域における“きずな”が低下しているといわれています。家庭や地域における“きずな”の再生・向上に寄与することを目的として、「子育ての支援フォーラム」（主催 財団法人全日私幼研究機構）では、特に幼児期の子どもがいる保護者等へ、子育ての楽しさや大切さをあらためて考えていただくためのきっかけづくりを提供しています。

全日本私立幼稚園連合会 <http://www.youchien.com/>



たのしい子育て全国キャンペーン

「たのしい子育て全国キャンペーン」として、毎年、全国の小・中学校のPTAを通じて、家族の風景（「家族のよこび」、「家族のきずな」など）をテーマに三行詩・写真を募集し、表彰しています。

また、入賞作品をまとめた冊子を作成したうえ、全国に配布し、「家族の重要性」を訴える取組を行っています。

社団法人 日本PTA全国協議会 <http://www.nippon-pta.or.jp/>



保育まつり

日本保育協会の全国各支部では、「親と子のふれ合い・地域との交流」をテーマとするイベントを行っています。

夏から秋にかけての開催が多く、「夏まつり」や市町村の保育所が連携して行う「保育まつり」など、実施方法も様々です。

「保育まつり」は実施に協力してくださる保護者の皆様に支えられ、毎年にごやかに開催されています。

社会福祉法人 日本保育協会 <http://www.nippo.or.jp/>



「家庭の日」運動

子どもが育つ第一の場は家庭であり、人間形成の基礎となる家庭における親の役割は重要です。

青少年育成国民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」とし、親と子の対話やふれあいを促進するとともに、毎年、小・中・高校生による「家庭の日」にちなんだ絵画やポスターを募集し、優秀な作品を表彰しています。

社団法人 青少年育成国民会議 <http://www.nayd.or.jp/>



すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして

全国保育協議会は、「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現」をめざしたビジョンを策定し、子どもの育ちを保障する 子育てライフを支援する 多様な連携と協働をつくる 子育て文化を育む 子育て・子育てを支援する仕組みをつくる、という5つの柱に基づき21,000の公私立保育所とともに事業を展開しています。各会員保育所では、保育活動のほか、園庭開放や小中学生・高齢者との交流、ボランティアの受入れ等をとおして家族や地域のきずなを強めています。



社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国保育協議会 <http://www.zenhokyo.gr.jp/>

みんなで語ろう幼児の生活・みんなで守ろう幼児の生活リズム

生活リズムを整えるためには、必要性を理解するだけでなく、体を動かして自然にリズムをつくるのが大切です。とりわけ、幼稚園や地域の中で、親子が触れ合いながら体を動かす活動を充実させれば、家族や地域のきずなが深まると考え、啓発用リーフレットを作成・配布するとともに、全国各地で「親子で楽しむ運動的な遊び」を中心とした子育て研修会を実施しています。



全国国公立幼稚園長会 <http://www.kokkoyo.com/>

子育てポジティブキャンペーン

全国知事会では、出産や子育ての意義・素晴らしさの理解を進め、子育てを社会全体で支える機運を醸成することを目的に、「子育てポジティブキャンペーンに関する申合せ」を行い、各都道府県が、地域のニーズを踏まえ、結婚や出産・子育て等についてのポジティブなメッセージや、企業や店舗等も含めた地域ぐるみでの子育て支援の必要性等について、各都道府県それぞれの方法により発信しています。

全国知事会 <http://www.nga.gr.jp/>

都道府県・指定都市等の取組

各都道府県・指定都市等では「子育てを支える家族・地域のきずな」に関する様々な取組を行っています。詳細については、内閣府の「家族・地域のきずなを再生する国民運動」のサイトから各都道府県・指定都市のホームページをご覧ください。

<http://www8.cao.go.jp/shoushi/kizuna/index.html>
 (「家族・地域のきずなを再生する国民運動」ホームページ URL)

平成20年度「家族・地域のきずな」フォーラムの予定

平成20年 10月25日(土)【岐阜大会】 岐阜市 岐阜県県民ふれあい会館
11月 9日(日)【福島大会】 福島市 コラッセふくしま
11月16日(日)【全国大会奈良】 橿原市 かしはら万葉ホール
平成21年 1月17日(土)【長崎大会】 長崎市 長崎ブリックホール

開催時間、開催内容、参加方法等は、内閣府又は開催県のホームページをご覧ください。

平成20年度 作品コンクール(標語、手紙・メール)

子育てを支える「家族・地域のきずな」に関する「標語」及び「手紙・メール」を7月1日から9月6日まで公募しました。最優秀賞作品は、11月16日の家族の日に「家族・地域のきずな」フォーラム全国大会奈良において内閣府特命担当大臣(少子化担当)から表彰されます。

平成20年度「家族・地域のきずなを再生する国民運動」啓発パンフレット

発行：内閣府政策統括官(共生社会政策担当) ☎ 03-5253-2111(代表)

<http://www8.cao.go.jp/shoushi/kizuna/index.html>